

『岡山理科大学 経営とデータサイエンス』  
“OUS Management and Data Science” 投稿規程

(投稿者)

1. 本誌に投稿できる者は、次のとおりとする。
  - (1) 経営学部専任教員
  - (2) 本学部系列の博士課程の学生
  - (3) 指導教員等と共同執筆するマネジメント研究科の修士課程の学生
  - (4) 経営学部専任教員との共同執筆者
  - (5) 修士課程・博士課程修了生のうち、学会則で定める本会会員である者
  - (6) その他特別に編集委員長が承認し、または依頼したもの
2. 本誌への投稿は原則として各巻1人1編とする。ただし、筆頭執筆者でない場合はこの限りではない。

(責任著者)

3. 著者が複数いる場合は、責任著者の著者名の右肩に\*(アスタリスク)を付す。なお、学生と指導教員等が共同執筆した論文では、原則として経営学部専任教員1名を責任著者とすること。

(論文等の種類)

4. 投稿論文等は次の種類とし、原則として未刊行のものに限る。
  - (1) 論文
  - (2) 研究ノート
  - (3) 書評
  - (4) 翻訳

(原稿の採否等)

5. 投稿原稿のうち論文は、編集委員会が定めた内規に基づき専門家・識者による査読を経た後に、学会長及び編集委員会が採否を決定する。論文以外の投稿原稿は、編集委員会が校閲を行い、採否を決定する。また、いずれの種類のものであっても編集委員会は、原稿の内容や形式について説明または修正を要求することができるものとする。

(原稿の提出)

6. 投稿者は、発行年1月の第2火曜日までに原稿を事務局に提出しなければならない。
7. 原稿の執筆方法などの詳細については、本規定の10以降の「執筆要領」によるものとする。

8. 英文原稿を提出する場合は提出前に、英文校閲を受けなければならない。
9. 原稿の受理日は、編集委員会が原稿と認めた日とする。

(原稿の著作権)

9. 投稿者は、『経営とデータサイエンス』として出版される目的のみに限定して、著作物（採択された原稿）の編集・複製・頒布する権利を当学会にライセンスすることに同意したとみなす。

(執筆要領)

#### 10. 〈掲載に必要な情報〉

『経営とデータサイエンス』に論文等を掲載するにあたって必要な情報は、以下の通りであり、以下の順で記述すること。なお、和文原稿の場合は日本語で、英文原稿の場合は英語で記述すること。

- ① 論文題目
- ② 執筆者名(責任著者名の責任著者の著者名の右肩に\*(アスタリスク)を付すこと。)
- ③ 執筆者所属機関名・部局名
- ④ 要旨(和文原稿の場合は200字以内、英文原稿の場合は200words以内)
- ⑤ 本文(和文原稿の場合はA4版18枚以内(1頁あたり40字×30行)、英文原稿の場合はA4版18枚以内(1頁あたり30行))
- ⑥ 注釈
- ⑦ 引用文献

#### 11. 〈原稿の文字数〉

投稿原稿の文字数は、和文原稿の場合は21,600字以内、英文原稿の場合は8,000words以内とする。なお、文字数に本文、注釈、参考文献、図表・写真などを全て含む。

#### 12. 〈付属情報の記載箇所〉

- ① 本文以外の付属情報は、謝辞、注釈、参考文献の順番で論文本体の末尾に記載すること。なお、謝辞は執筆者推定が可能となる可能性が高いため、採択後、事務局に提出すること。
- ② データファイル作成時、謝辞、注釈、参考文献は論文本文と同一ファイルに含むこと。

#### 13. 〈投稿原稿における謝辞・参考文献等の記載〉

- ① 謝辞は、論文本体の末尾、注釈の前に記載することとする。
- ② 投稿論文においては、審査プロセスの匿名性確保のため執筆者が特定できる可能性のある情報（謝辞や研究資金助成）の記載は投稿時点では行わず、採択後の完成原稿に記さ

なければならない。

- ③ また、本文中の参考文献の引用などにも留意し、「拙稿」などの表記や、未公刊自著の引用、その他執筆者が推定されるような論文の引用は行ってはならない。

#### 14. 〈注釈〉

- ① 注釈は文末注とし、本文中の該当箇所にアラビア数字・右側片括弧の通し番号を記すこととする。
- ② ホームページから引用した場合は、出典を注釈にて明記することとする。
- ③ 注釈の利用は、最小限にしなければならない。

#### 15. 〈参考文献〉

- ① 他の著作物からの引用には出典を明記し、必要な場合には、投稿までに著作権者の了解を得なければならない。本文中での引用表記と参考文献の記載方法については、以下の形式に従うこととする。例示されている以外の媒体の文献については、その形式・スタイルを定めないが、当該文献が特定可能となるようにすること。
- ② 参考文献は、本文末に一括してリストを作成し、日本語・外国語ともに第一著者名の姓のアルファベット順に記載することとする。
- ③ 同一著者の論文・著作等は、刊行年順とし、同一年に同一著者の論文・著作等が刊行されている場合には、「2023a」「2023b」のように年号の後にアルファベットで順序をつけて区別することとする。

#### 16. 〈本文中での引用表記〉

- ① 本文中で参考文献を引用する場合には、「野中 (1976)」、「Nonaka (1994)」のように、著者の姓に続けた括弧内に年号をアラビア数字で記入することとする。
- ② 著者が2名の場合は、「竹内・野中 (1986)」、「Nonaka & Takeuchi (1995)」のように連記することとする。
- ③ 著者が3名以上の場合には、初回の引用から「野中ほか (1987)」、「Imai et al. (1985)」のように第一著者に続けて「ほか」(日本語の場合)、「et al.」(外国語の場合)を用いることとする。
- ④ 括弧内の記述については、「…については既に論じられている(Imai et al., 1985; 竹内・野中, 1986)」のように、著者名と年号を読点で区切ってまとめ、第一著者のアルファベット順にセミコロンで区切って記載することとする。
- ⑤ 同一著者の論文・著作などは、刊行年順とし、「Nonaka (1999, 2000a, 2000b)は…と論じている」のように、刊行年順にコンマで区切って記載することとする。

## 17. 〈参考文献の記載方法〉

参考文献の記載は以下の形式に従うこととする。

### ① 書籍

- (ア) 野中郁次郎 (1974). 『組織と市場—組織の環境適合理論—』 千倉書房.
- (イ) 野中郁次郎・加護野忠男・小松陽一・奥村昭博・坂下昭宣 (1978). 『組織現象の理論と測定』 千倉書房.
- (ウ) Nonaka, I., & Takeuchi, H. *The knowledge creating company: How Japanese companies create the dynamics of innovation*. Oxford University Press (梅本勝博 訳『知識創造企業』 東洋経済新報社, 1996 年).

### ② 書籍の特定の章

- (ア) 竹内弘高・野中郁次郎 (1986). 「新製品開発の戦略と組織」 今井賢一 (編著) 『イノベーションと組織』 ( pp.97-126 ). 東洋経済新報社.
- (イ) Imai, K., Nonaka, I., & Takeuchi, H. (1985). Managing the new product development process: How Japanese companies learn and unlearn.. In K. B. Clark, R. H. Hayes C. Lorenz (Eds.), *The uneasy alliance: Managing the productivity technology dilemma* (pp.337-375). Harvard Business School Press.

### ③ 定期刊行物

- (ア) 大藪亮 (2019). 「サービス支店のマーケティング研究：サービス・ドミナント・ロジックとサービス・ロジックにおける価値共創」 『岡山理科大学 経営とデータサイエンス』 1, 1-18.
- (イ) Takahashi, R. (2021). Modelig resident's attitudes toward social business. *OUS Management and Data Science*, 3, 1-25.

## 18. その他の事項

- ① 和文原稿の本文および図表タイトルは明朝体で、論文題目、章タイトルはゴシック体で、本文中の英数字は Times New Roman に統一することとする。また、英文原稿は、全て Times New Roman で統一することとする。
- ② 原稿は本学会のホームページにて公開されている原稿フォーマット(Word 形式)を用いて作成することが望ましい。
- ③ 本投稿規定で定めた論文等の長さ及び体裁を著しく逸脱した原稿は、内容の如何に関わらず不採択となる場合がある。

附 則 令和 3 年 7 月 11 日よりこれを施行する。

附 則 この改正投稿規程は令和 5 年 11 月 15 日から施行する。